


ギュっとラーニング 

～ 支援者向けオンデマンド研修教材～

※本研修教材の無断使用・転載・コピー・引用等は禁止します。

犯罪被害者等が抱える 心的ストレス

特定医療法人社団青山会 青木病院

飛鳥井 望



本講義の内容

- 心理的外傷によるストレスの影響
- 被害者が抱えるトラウマ反応
- ト라우マ反応に重なる他の問題
- 被害者遺族が抱える悲嘆への理解

犯罪被害者等基本法

(保健医療サービス及び福祉サービスの提供)

- 第一四条 国及び地方公共団体は、犯罪被害者等が**心理的外傷**その他犯罪等により心身に受けた影響から回復できるようにするため、その心身の状況等に応じた適切な保健医療サービス及び福祉サービスが提供されるよう必要な施策を講ずるものとする。

3

心理的外傷・トラウマ

こころもケガをする！

- 強い恐怖や不安を伴い、圧倒されるような精神的衝撃をもたらし、個人がその対処に困難を感じる出来事
- 生命や身体的安全への脅威、受傷、悲惨でグロテスクな場面の目撃など
- 災害、重大事故、暴行傷害、性暴力被害、拉致監禁、虐待、配偶者間暴力(DV)、戦闘、テロなど

強い情動反応の下で刻みこまれる
衝撃的記憶 (**トラウマ記憶**)

4

心理的外傷によるストレスの影響

- 1 身体面の影響
- 2 精神面の影響
- 3 行動面の影響

5

心理的外傷によるストレスの影響

- 1 身体面の影響
 - 眠れない
 - 食欲がない
 - 体が痛む（腹痛や頭痛など）
 - 動悸がする
 - 微熱がある
 - 下痢をする
 - 息苦しい、過呼吸
 - 体が緊張する
 - 持病の悪化（高血圧や糖尿病など）

6

心理的外傷によるストレスの影響

2 精神面の影響

- 不安恐怖感が続いている
- 気持ちが落ち込む
- 事件の場面の記憶が繰り返し蘇り苦痛を覚える
- 悪夢を見る
- イライラしやすい
- 些細な刺激にも過敏となる（物音や人の気配など）
- 感情麻痺（物事を楽しめない）
- 過度の警戒心（ひどく用心深くなる）
- 自分の行動を後悔し、自分を責める

7

心理的外傷によるストレスの影響

3 行動面の影響

- 仕事や勉強など物事に集中できない
- 電車やバスに乗れない
- 一人で外出できない
- 人混みが苦手になる
- 家に引きこもる
- 飲酒量が増える

【子どもの場合】

- 赤ちゃん（幼児）返りして甘える
- かんしゃくを起こしやすい
- 登校・登園しぶり
- ゲームなどに没頭する

8

被害者が抱えるトラウマ反応

【通り魔による刺傷事件被害者のPTSD】

- 犯人の表情や刺さった包丁が頭に浮かび、気分が悪くなる。
- 夜は事件の夢にうなされる。 再体験・侵入症状
- 包丁を見ただけでも強い不安を感じる。
- テレビ番組の暴力シーンや傷害事件ニュースは目にしないようチャンネルを替える。 回避
- イライラして言葉を荒げることが増えた。
- 集中できず本を読んでも放り出してしまう。
- 外出は家族の付添いがないと安心できない。 過覚醒・脅威の感覚
- 仕事に出ることができない。
- 人付き合いが減り自宅にこもりがちになる。

9

被害者が抱えるトラウマ反応

【性犯罪被害者を苦しめる長期的影響】

- 自責感
 - なぜ被害を防げなかったのか
 - なぜ逃げようとしなかったのか
 - 応じてしまったのではないか
- 汚れ感
 - 汚された事実を知れば、私を本当に愛してくれる人はいない
 - 普通の幸せはもう望めない
- 社会生活での男性に対する慢性的緊張・回避
- 自尊感情の低下と対人関係困難
- 性生活上の困難
 - 性的忌避
 - 性的逸脱(無力感/汚れ感からの自暴自棄)

10

トラウマ反応に重なる他の問題

【さまざまなストレス要因】

- 身体的後遺症の苦痛
- 刑事手続（捜査、裁判）の精神的負担
- 仕事先や学校生活での問題
- 住居の問題
- 経済的不安
- 家族内の人間関係の悩み

11

トラウマ反応に重なる他の問題

【被害前からの精神健康上の問題】

- 精神疾患の既往（うつ病など）
- 発達障害（ADHD、自閉スペクトラム症）
- 摂食障害（やせ症・過食症）
- アルコール依存
- 知的障害
- 不適切な養育歴・被虐待歴

12

被害者遺族が抱える悲嘆への理解

1 悲嘆（グリーフ）とは

- (1) 死別体験の直後から生じる「多様な感情の複合体」である。
- (2) 感情変化だけでなく、認知面（物の考え方）や行動面の変化も伴う。
- (3) 悲嘆は、死別という喪失体験を受けとめ、「故人はもういない」という新たな環境に遺された者が適応していくためのプロセスである。

13

被害者遺族が抱える悲嘆への理解

2 悲嘆の表出の仕方はそれぞれ違う。

- (1) 悲しみの表し方は、同じ家族であっても一人一人違い、**正しいも間違いもない。**
- (2) それぞれが互いの悲しみ方を尊重し理解することが大事である。

3 悲嘆は「不治の病」ではない。

- (1) 愛する対象を喪った当然の反応である。
- (2) どのような悲嘆にもかならず出口がある。

14

被害者遺族が抱える悲嘆への理解

被害者遺族は心理的外傷によるストレス（PTSD等）に加えて、しばしば悲嘆が遷延化する。

4 「遷延性悲嘆症」の苦悩

- ・ 強い思慕と、常に故人のことが頭から離れない苦痛感
- ・ 喪失の現実を受け止めることの困難、半信半疑
- ・ 故人のいない人生の空虚感、未来への目的を失い無意味だという気持ち
- ・ 喪失の現実を想起させる事物・場所・状況の回避
- ・ 自責感・後悔・申し訳なさ・怒りの混在
- ・ 日常生活の停滞
- ・ 社会的引きこもり

15

被害者遺族が抱える悲嘆への理解

被害者遺族の精神援助ニーズはさまざま

通常の悲嘆 ←————→ 遷延性悲嘆



個人の 復元力	グリーフカウンセリング 自助グループ参加	専門 治療
------------	-------------------------	----------



必要に応じた現実的支援の提供は共通

多機関による中長期の支援が必要となることもある。

16

ご視聴ありがとうございました。

